

《人間の脳は常に伸び続ける》

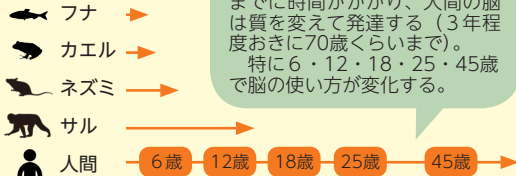
COTは脳や神経に刺激を与え、短時間で結果が出ることもあれば、対象者自らが非常に高い能力を身につけるキッカケを与えることもあります。

子どもから高齢者、障がいがある方まで、すべての方の生活をCOTでより良いものにすることができます。例えば、遊び方や散歩、赤ちゃんへの関わり方、年齢に合わせた言葉掛けなどを、理論に基づいてちょっと工夫することで、子どもの能力を飛躍的に伸ばせます。

また、体の衰えを感じる中高年期では、COTの簡単な運動で、転倒防止など体力・生活の問題を解決することができます。これは人間の脳が生まれてから死ぬまで変化し、常に能力が伸び続けるという理論をもとに、各年代に合わせたトレーニングを実施しているからです。実際に全国で多くの方がCOT効果を実感しています。

さらに、東京都をはじめ多くの自治体が人材育成や地域活性化の方策としてCOTを取り入れています。福岡県嘉麻市では、すべての年代へのCOT実施と、理論に基づいた地域の人々の取り組みにより、企業が人材を求めて集まる市を目指しています。

【生物の脳発達】



本市の先進的な取り組みは、県内だけでなく全国に発信できるものです。各地の取り組みと連携することで、本市のさらなる発展につながっていくものと考えます。今月で最終回ですが、このプロジェクトは今後も続いていきます！

本庁舎学校教育課 内2365



未来へつなごう「仁」のこころ

白河戊辰戦争回顧録

第9回 戊辰戦争の考察文⑤

《戊辰戦争悲話》

白河戦争では様々な悲劇が伝えられています。

慶応4年(1868)閏4月20日、新政府軍の管理下にあった小峰城を、会津藩が城下西方より攻撃してきました。そのことを小峰寺の住職が、寺の鐘を撞いて町民に知らせると、これを目撃した会津藩兵が住職を射殺してしまいました。



▲小峰寺(道場町)

一方、会津藩が占拠した小峰城を奪還するため、江戸から宇都宮を経て奥州街道を北上してきた新政府軍は、白坂宿の庄屋白坂市之助を見せしめとして捕らえて惨殺しています。



▲白坂市之助墓(白坂)

さらに5月1日、新政府軍が白河を攻撃する進軍の途中、夏梨で馬を引き連れていた農民大竹繁三郎が、同盟軍兵士あるいは密偵と間違われて射殺されてしまいました。その後、新政府は大竹家に謝罪し、多額の供養料を与えています。



▲大竹繁三郎墓(夏梨)

5月1日の激戦で勝利し、白河を占拠した新政府軍は、中町の豪商常盤彦之助を惨殺します。彦之助は以前白河藩主であった阿部家より問屋役を任命され、輸送業務を行い店が繁盛していました。その見返りとして藩に多額の献金をし「阿部の常盤か常盤の阿部か」と称されたほどの商人でした。

そのことが、新政府軍に利敵行為をおこなった商人と敵視され、5月6日の夜中、薩摩兵士に呼び出され、中町から手代町へ行く路地で斬られてしまいました。彦之助の首は大手門前に晒されましたが、これを不憫に思った大工町の井筒屋の主人が首を持ち帰り、関川寺で火葬にして埋めました。



▲常盤彦之助墓 関川寺(愛宕町)

このように、白河戦争では武士だけでなく、庶民も戦争に巻き込まれて尊い命を奪われています。(文・植村美洋)